

試験経過記録

区分 任意

下屋久 營林署

(様式4) ~ /

課題

群状択伐によるヤクスギ天然林施業法

1. 作業工程調査 (城区)

表-1のとおり

(表-1)

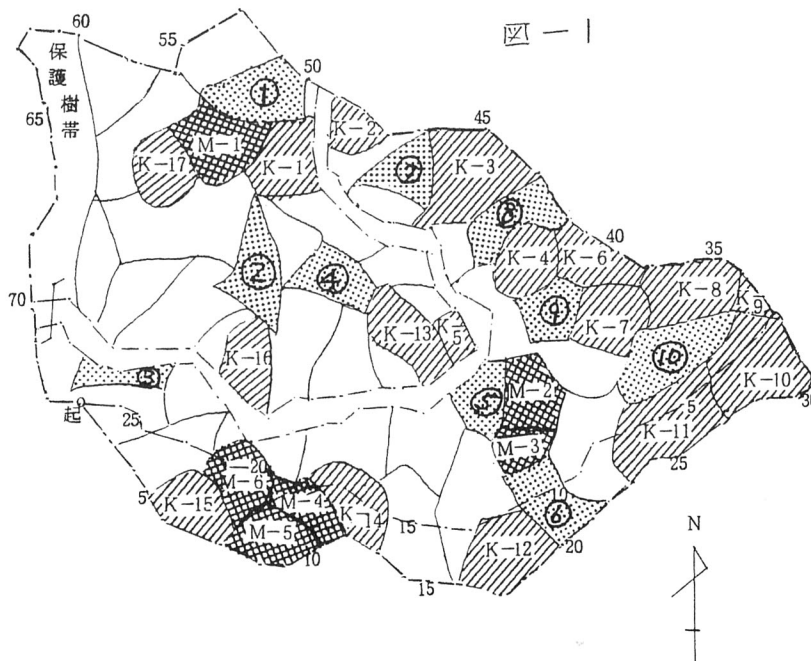
伐区	架線作業等実績延人員					集造材人工数				出材量		実績 工程
	機 械 付	索架設	索撤去	盤 作 台 設	盤 撤 去	伐 倒	全 集 材	幹 材	土埋木 集材	計	山 元	
1	3,375人	29,125人	15,000人	30,125人	11,625人	25,125人	201,750人	0人	226,875人	300,725m	216,478m	2.28m
2	6,875	18,875	5,750	22,500	9,750	20,250	136,500	79,500	236,250	130,979	326,628	1.94
3	-	21,875	16,625	29,875	12,825	16,750	126,125	91,250	277,875	262,529	259,458	2.27

注) 1: 3伐区の集材機位置及び元柱は, 2伐区と変らず。

2: 実績工程は, 土埋木を含む。

2. 調査事項

調査記番を①~⑩に設定(図-1)



記載要領

1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録

区分 任意

下屋久 営林署

(様式4) ~ 2

(1) 植生調査(表-2)
・占有率(%)により調査。

調査記番	樹					種					計
	ハイキ	ミヤマ シキミ	ヒサカキ	ダラ	イ ガヤ	イナジ類	スギ	アケ類	裸 枝	地 糸	
No 1	80 [%]		1 [%]	1 [%]		5 [%]				15 [%]	100 [%]
" 2	70		1			3				26	100
" 3	80	2		1		2				15	100
" 4	10								10	80	100
" 5	66	1		1		1	1			60	100
" 6	30	1	2	1		1				65	100
" 7	40									60	100
" 8	20	1				-1				78	100
" 9	30									68	100
" 10	15								5	80	100

(2) 稚樹発生調査

・各調査記番共、伐採後の稚樹の発生は認められず。
但し、No 5 調査記番内に、スギ(平均樹高50cm)約50本が発生している。

(3) 種子豊凶調査

・昭和61年度は凶であった。

記載要領 1. 調査結果及び考察を記入する。
2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区 分 任 意

下 屋 久 営 林 署

(様 式 6)

伐採区遠景



伐採区近景



調査プロット設定



稚樹発生状況



形式 2

課題	群状択伐による×7スギ天然林施業法	継続・新規別	継続	担当 課	作業課 計画課 造林課	開発 箇所	下屋 久	期間	昭和 60 年度 ~ 昭和 65 年度	
		経常・特別別	経常							
		指示・自主別	任意							
全 体 計 画		実 施 報 告			昭和 62 年度実施計画		評価および普及計画			
		昭和61年度までの実施経過を記入のこと		昭和 62 年度実施結果を記入のこと						
1. 試験地設定 2. 保残区、伐採区の決定 3. 架線集材方法の決定と 作業工程調査 4. 調査事項 (1) 相対照度調査 (2) 稚樹発生調査 (3) 植生調査 (4) 生長量調査 (5) 種子豊凶調査 5. 稚樹刈出時期の決定		1. 試験地設定 (1) 場所 平瀬国有林 93 林小班 (2) 面積 区域面積 12.64 ha 試験地面積 1.77 ha 2. 保残区・伐採区の決定 3. 架線集材方法の決定と 作業工程調査 4. 調査事項 (1) 植生調査 (2) 稚樹発生調査 (3) 種子豊凶調査		1. 調査事項 (1) 植生調査 (2) 調査プロット設定 (1) 調査プロット内植生調査 (2) 稚樹発生調査 (3) 種子豊凶調査 (4) 母樹分布調査		1. 調査事項 (1) 相対照度調査 (伐採区、保残区) (2) 植生調査 (3) 稚樹発生調査				

試験経過記録

16分 任意

下屋久 営林署

(様式4) ~ /

課題

群状択伐によるマクスギ天然林施業法

1. 調査事項

(1) 植生調査

(ア) 調査プロット設定

図-I 設定図の10伐採区について、30ヶ所(1伐採区3ヶ所)の調査プロット(1m x 1m)を設定した。

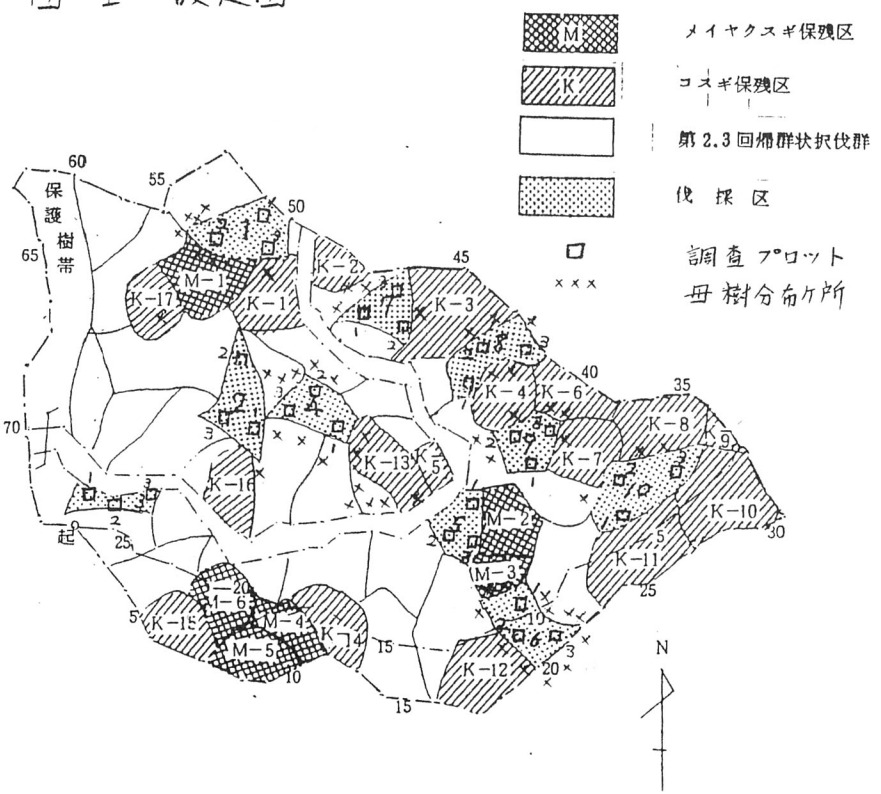
(1) 調査プロット内植生調査

調査プロット内に於いて表-Iのとおりに植生調査を行なった。

表-I

図-I 設定図

凡例



区 分 プロット	植 生												
	スギ	モミ	ツガ	ミヤマコダラ	カラヤ	ハルキ	ウサギ	クサ	シメ	イサシヨウ	ソヨゴ	ツツジ	イナゴ
1	1	/	4										
2	2	4											
3	3	2				8	1						
4	1	1					3				6		
5	2				2				1		5		
6	3					12	3						3
7	2	2	1		1	6	1					10	1
8	3	2	1		1	7	1	1				1	
9	1	1				1	2		1				
10	2	3	2				2						1
11	3	1					1		1				
12	1	1											
13	2	1							1				
14	3	8											
15	1	1				1	1						
16	2	2					2						
17	3	1					3						
18	1	1				3	4		2	1			
19	2					10							
20	1	1				1			2	5	1		
21	2						1		8				
22	3								2				1
23	1	1				4		1	2				
24	2					2			2				
25	3						1	1					
26	1	1					1	1					
27	2						1	1					
28	3						1	1					
計	31	3	7	9	2	48	69	10	6	1	11	11	6

記載要諦 1. 調査結果及び考察を記入する
2. 状況写真は別途整理する

試験経過記録(その2)

(2) 稚樹発生調査

調査プロット内で調査を行ったが表-Iのとおり
スギ平均樹高10cmの稚樹発生がみられた。

(3) 種子豊凶調査

昭和62年度はマクスギの結実状況は「豊」であった。

(4) 母樹の分布調査

各伐採区周辺のマクスギ母樹を図-Iのとおり
調査した。

2. 考察

各伐採区ともマクスギ稚樹の発生がみられたが、
伐採前から伐採時までの発生と推察され、伐採後
の新たな発生については今後調査プロット内で毎
年観察して行きたい。

昭 63.12.17
 下屋久子
 昭 63-156
 林研 調査課

昭和 6 3 年 度 技 術 開 発 実 施 報 告 書

様式 2

課 題	継続・新規別		継 続	担 当 課	作 業 課 計 画 課 産 林 課	開 発 箇 所	期 間	昭 和 60 年 度 ~ 昭 和 63 年 度
	経 常 ・ 特 別 別		経 常					
	指 示 ・ 自 主 別		自 主					
群 状 採 伐 による ヤクスギ 天然 林 施 業 法							下 屋 久	
全 体 計 画	実 施 報 告			昭 和 63 年 度 実 施 計 画		評 価 お よ び 普 及 計 画		
	昭 和 62 年 度 までの 実 施 経 過 を 記 入 の こと			昭 和 63 年 度 実 施 結 果 を 記 入 の こと				
1. 試 験 地 設 定 2. 保 残 区、伐 採 区 の 決 定 3. 架 線、集 材 方 法 の 決 定 と 作 業 功 程 調 査 4. 調 査 事 項 (1). 相 対 照 度 調 査 (2). 稚 樹 発 生 調 査 (3). 植 生 調 査 (4). 生 長 量 調 査 (5). 種 子 豊 凶 調 査 5. 稚 樹 刈 出 時 期 の 決 定	1. 試 験 地 設 定 (1). 場 所、平 沢 国 有 林 93 林 小 班 (2). 面 積、区 域 面 積 12.64 ha 試 験 地 面 積 1.77 ha 2. 保 残 区、伐 採 区 の 決 定 3. 架 線、集 材 方 法 の 決 定 と 作 業 功 程 調 査 4. 調 査 事 項 (1). 稚 樹 発 生 調 査 (2). 植 生 調 査 (3). 種 子 豊 凶 調 査 (4). 母 樹 分 布 調 査			1. 調 査 事 項 (1). 植 生 調 査 (2). 稚 樹 発 生 調 査 (3). 種 子 豊 凶 調 査		1. 調 査 事 項 (1). 稚 樹 発 生 調 査 (植 生) (2). 種 子 豊 凶 調 査		